

校内研修計画

牧丘第三小学校

1. 学校課題

本校は、全校児童27名、標高742mの山間部に位置する小規模校である。学校の周りには自然があふれ、子ども達はその中で生き生きと生活している。明るく素直な子が多く、学校行事や児童会活動や遊びなど、ほとんど全ての活動を学年を超えて仲良く行っている。運動会への高齢者の招待、三世代ふれあい交流教室、地域人材活用での授業実践など地域の方々とのつながりも深い。

また、児童数が少ないため、様々な体験活動を仕組むことができる。校外学習や音楽発表会などはいつも複数学年または全校での取り組みで、異学年間での学び合いができる良さがある。学習指導においては一人ひとりに目が行き届き、きめ細かな指導や個に応じた指導で学力向上を図っている。

反面、人間関係が固定されがちであり、多様な考えや価値観に触れる機会が少ない。学習においても、様々な観点で考えたり発表し合ったり、また、話し合っより質の高いものに深めていくことが苦手である。少人数の利点を生かし、何でも言い合えるような場面をもっと工夫して、授業の中に仕組んでいきたい。そして、言語環境を整え、互いに切磋琢磨し、確かな学力を身につけていくことが本校の課題である。

2. 研究主題

感じ取ったことや考えたことを伝え合い、学びを深める指導の工夫
～話し合い活動を通して～

3. 主題設定の理由

学習指導要領の中心的課題は、「生きる力」としての「確かな学力」を基盤とした思考力・判断力・表現力等の育成である。そして、各教科において言語活動の充実を図ることで、その育成をねらっている。本校では、これまで児童に「確かな学力」をつけたいと考え、朝の習熟学習（ステップアップタイム）で、国語・算数（マス計算や漢字前倒し学習、低学年からの辞書の活用、読書活動等）を中心に学習し、全校で「読む・書く・計算する」力を確実につけることに取り組んできた。学習の基礎となる力を確実に伸ばすことにより「分かる喜びが持てる学習指導の充実」を目指してきた。勉強が分かることは、すなわち、学校が楽しいことにつながる。児童が、興味関心を持って意欲的に学習に取り組み、「わかる」楽しさを実感できる授業創りが求められる。

本校は少人数で、時間的空間的な余裕があり、多様な活動を仕組むことができる良さがある。少人数に応じた学習指導や、作業的・体験的な活動、分かったことを表現し合う力を育てる取り組み、自分の感じたことや考えたことを伝え合う力を育てる指導の工夫について研究してきた。その結果、子どもの声を引き出すことができ、児童は、たくさん発言することで自信をもつことができるようになった。

一方、自分の知識や経験と結びつけて解釈したり、自分の考えと比較・関連させて多様な観点から考えを深めたりするという点に課題が残った。

そこで、本年度は、これまでの「話すこと」の目標に「聞くこと」を付加して、「話すこと・聞くこと」として取り組み、さらに、各教科等において、言語活動を持たせた話し合い活動を仕組めば、自分の考えを伝え合い、学びを深めることができるであろうと考え、この主題と副題を設定した。

4. 研究の具体的内容与方法

(1) 研究の見通し

日常的な言語活動の充実・言語環境の改善に努め、各教科等において、自分の感じたことや考えたことを伝え合う話し合い活動を仕組んだ授業をすることにより、伝え合う力を育て、学びを深めることができるであろう。

(2) 研究の具体的内容

- 1 話し合い活動を取り入れた授業を実践して、伝え合う力を育て高める。
- 2 「話すこと・聞くこと」の各学年の目標達成に向けた取り組みを工夫する。
- 3 日常的な言語活動の充実・言語環境の改善に努める。
- 4 伝え合う力について児童の実態を把握し変容を見取る。(子どもアンケート2回実施)
- 5 今日的な教育課題について学習する。
(指導計画の見直し、特別支援教育に関する研修、英語活動に関する研修、機器活用の研修)

(3) 研究方法

- 1 全体会を中心に進める。
- 2 講師を招いての学習会を実施したり、文献や先行研究に学んだりする。
- 3 一人一実践(全学年で授業公開を行なう。)
- 4 指導主事を招聘し研究授業を行い、指導を受ける。
- 5 子どもアンケートで、児童の意識や変容を見取る。
- 6 研究の成果を研究紀要にまとめる。

(4)年間校内研修計画

研究主任 津野 千尋

研究テーマ 学びを深める指導の工夫 話し合い活動を通して	教科 領域	担当者	学年	時期	TC要請
	本年度の研究の方向性・研究計画	研究主任		4月	
	講師を招いての学習会	研究主任 研究副主任		5月	
	授業公開と研究討議, 子どもアンケートについて	授業者 担当者	5年	6月	
	授業公開と研究討議, 英語研修	授業者 研究主任	3年	7月	
	教育課程還流報告, 特別支援教育研修	担当者 特別支援教育 コーディネーター		8月	
	児童の実態分析, これまでの取り組みの情報交換	研究主任 各担任		9月	
	授業公開と研究討議	授業者	1年 6年	10月	
	授業公開と研究討議,	授業者	4年	11月	
	児童の変容の把握, 教育課程の見直し	研究主任 各担任		1月	
	成果と課題 今年度研究のまとめ	研究主任		2月	
	研究紀要作成	研究主任		3月	

